



#### 《講演》 町内会の強みを活かした地域福祉活動

北星学園大学 岡田直人 教授

地域社会には行政主導によるさまざまな目的のネットワークがあるが、タテ割り組織であるため、幅広く地域の問題を取り上げることは難しい。ところが、これをマルチなネットワークとして構築し、地域活動の担い手づくりを進め、福祉の困りごとにも共に考えていくという実績を持つ地域があります。

それは大阪市鶴見区にある榎本地区です。JR 駅前の商店街を中核とする榎本連合町内会を母体に、2011 年に大阪市が推進する地域活動協議会として発足。2013 年には NPO 法人化しました。

この地域の活動はどのようにスタートし、発展してきたか。2003 年、駅前に放

置される自転車を“何とかならんかなあ”と、町内会で整理作業を始めたところ、次第に JR 駅等も協力してくれるようになりました。

次は、電柱等の違法貼り紙広告や落書きをはがす・消すの運動。これが反響を呼び、通勤・買い物途中の住民が自主的に協力してくれるように。その後、地域の“片づけたい活動”に発展していったのです。

また、町内の祭りに若者を呼ぼうと地域内にある高等学校と連携し、軽音楽やダンスの部活動発表の場となりました。このように、さまざまな活動が実を結び、地域活動の担い手が増え、結果として地域活動協議会結成へと連動していったのです。

2 月 22 日午後 7 時、平岡町内会福祉推進委員会が開催され、北星学園大学・岡田直人教授が「地域福祉活動の担い手づくり」をテーマに講演しました。これには、当町内会から見守り活動協力員の代表らが参加しました。

#### 充実・工夫のケース

○…仕事を持っている協力員さんとペアを組んでいるので、訪問する際は曜日を決めてから一緒に伺うようにしています。

○…過日、近所を徘徊しているような高齢男性を見かけたので、意を決して話しかけました。その方は 4、5 時間も歩き回っていたようです。幸い自宅の電話番号を話してもらえたので、ご家族へ連絡がとれました。

○…当初はプレッシャーもありましたが、今では対象者の方と一緒に買い物へ行くこともあります。

#### 提案や意見など

○…一人暮らしの対象者宅を訪問すると、さまざまな話をされます。時間の許すかぎり語り合いますが、そんなとき私たち見守り協力員だけでなく、いろいろな方とお話ができるような場があればと思います。たとえば大きな規模ではなく、班ごとに話し合いの機会をつくれない

### 見守り活動協力員の「日常活動」から

ものでしょうか。

○…近隣の人たちから「見守りのシステムはいいね」と言われます。そのうえで思うことは、町内会館で行われる「サロン」に対象者の方もお誘いしてはどうでしょうか。



日々の活動について話し合う協力員の皆さん=12月3日活動推進会

#### 課題や要望など

○…80 代後半の対象者の方、お元気なので安心してしています。でも、毎日車の運転もされるので気になります。同居ではないご家族との連携がスムーズにいくよう心がけています。

○…緊急時などのご家族への連絡先は知ることができません。それ以外の介護保険のサービス利用の有無などは当然、知る立場にはないので、何かあったときに専門機関との連携が滞りなく進められるようにしなければならないと思います。